

「令和2年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和 3 年 4 月 15 日

事業名称		保健衛生諸費（後期高齢者）〔後期高齢者医療人間ドック等受診料助成事業〕									
予算科目	款 3	保健事業費	項 1	保健事業費	目 3	保健衛生費	事業番号	1			
事業の種別	☐ 市単独 ☒ 補助対象 ☐ 市が実施することが法律等で義務付けられているもの（市の上乗せあり）										
担当部署・課長名	保険年金			課	高齢者医療年金		係	課長名	岩野 秀夫		
この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。							施策番号	2 - 5			
【施策名】 社会保障の充実							総合計画書（ページ）	63			
1 この仕事の目的	① 誰（何）を対象にしていますか。				① ①の対象数や量を、あらわすもの（対象指標）						
	後期高齢者医療被保険者				後期高齢者医療被保険者数						
	→										
	② ①をどのような状態にしたいのですか。〔簡潔に〕				② ②の状態になった数・量をあらわすもの（成果指標）						
疾病の予防・早期発見により、健康の保持増進を図る。				人間ドック等受診料助成申請率							
→											
③ そのために何をしましたか。				③ ③をどのくらい行いましたか（活動指標）							
被保険者が人間ドック若しくは脳ドックを受診した際、受診費用の一部として、年度内に一回、23,000円を上限に助成する。				人間ドック等受診料助成支給件数							
→											
2 指標の推移			単位	過去2年間の実績		当該年度	成果目標				
				平成30年度実績	平成31年度実績	令和2年度実績	令和3年度目標	令和4年度目標			
	対象指標	①の数値	人	11,548	11,848	12,026					
	成果指標	②の数値	%	1.3	1.4	0.9					
	目 標	②の目標値									
		目標値設定の考え方									
活動指標		③の数値	件	149	169	105					
3 経費	事業費（実績）		円	3,427,000	3,882,240	2,415,000	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費（再任用職員以外） 年間単価は、 8,380,000円 時間単価は、 4,300円 で計算してください。 【算出根拠】平成31年度決算数値。 （退職手当組合負担金、共済費も含む。）				
	財源	一般財源	円	977,500	2,194,135	1,467,785					
		特定財源（国・都・他）	円	2,449,500	1,688,105	947,215					
		（うち受益者負担）	円	0	0	0					
	人件費（目安）	所要人数（再任用以外）	時間	968.0	968.0	968.0					
		所要人数（再任用）	時間	0.0	0.0	0.0					
		職員人件費（再任用以外）	円	4,065,600	4,162,400	4,162,400					
職員人件費（再任用）	円	0	0	0							
事業費＋人件費		円	7,492,600	8,044,640	6,577,400						
4 環境変化等	（1）開始年度 平成20 年度 （2）環境の変化 平成20年4月の後期高齢者医療制度創設時より、健康の保持増進を目的とし、市独自の事業として実施している。助成額の一部は東京都後期高齢者医療広域連合から補助されている。										

事業名称	保健衛生諸費（後期高齢者）[後期高齢者医療人間ドック等受診料助成事業]			
担当部署・課長名	保険年金	課	高齢者医療年金	係 課長名 岩野 秀夫

5 市民等の意見	この仕事に関して、令和2年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について 健康診査と比べ、人間ドックは検査項目が詳細になる分、費用が高額となるため、費用助成する本事業は被保険者から好評を得ている。			
6 市民協働	(1)この仕事の実施にあたり、市民協働に取り組みましたか。取り組んだ場合、取組手法欄の種類から番号を選択し、取組手法欄に番号を記載してください。（複数回答可）			
	☐ 取り組んだ	取組手法：		
	☒ 取り組まない	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ）⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）		
	(2)令和3年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点			
7 課題	(1)令和2年度に課題とした内容（「平成31年度に実施した仕事」の振り返りシート 7課題（3）を転記） 本事業は、これまで長寿健康増進事業費補助金と一般会計からの繰入を財源に運営してきた。平成30年度から補助率が段階的に引き下がり、令和2年度を最後に、補助金が廃止となる。			
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、令和2年度に実施したこと。			
	令和3年度から、新たな補助金を活用するため、人間ドック等受診料助成要綱の改正など、必要な整備を行った。			
	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）			
	補助金の交付要件として、人間ドックの受診結果をシステム上で管理する必要がある。このため、システムへの入力事務が新たに発生			
8	施策貢献状況（この仕事は、総合計画（基本計画）に掲げる課題の解決手段になっているか。） 施策名： 社会保障の充実 ☒ なっている ☐ 環境の変化等により成果が減少している ☐ 類似の事業が他にあり改善の余地がある 事業名（ ）			
9 今後の方向性	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題及び「8 施策貢献状況」を踏まえた具体的な改革・改善案など） ☐ 拡大 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止 【取組内容】 人間ドックの受診結果を活用し、歳入の確保や保健事業へ繋げていく。			
	(2)上記(1)の取組にあたり、克服すべき問題点、必要な調整・準備等			
	人間ドックの受診結果を入力する事務が発生するため、適正な事務分担が必要となる。			